

2024年度 事業 報告

2024年1月1日から2024年12月31日まで

「世界遺産を目指す江戸城再生」

江戸東京の歴史と伝統文化により世界が憧れる都市東京を目指し、**歴史文化資源を活かした観光まちづくり**の形成・発展に寄与することを目的として、広く一般社会に対し会報誌やホームページを通して普及・啓発を進めると共に関連する行政等に提言活動を行ってきた。

I. 調査・研究活動

1. 調査研究活動

- ・当初、江戸城全体整備計画の策定する調査研究委員会の設置に向けて、準備プロジェクトを設置し、諮問内容及び委員会設置等の概要を作成することとした。一方、東京都は2024年度の中長期計画において江戸城跡の世界遺産登録を目指すことを明確化した。

また、文化財保護法の「大綱」の策定に向けても現在、作成中である。「大綱」に関連する区における文化財保存活用計画の取組も進みつつあり江戸東京の歴史文化資源を活かした観光まちづくりにとって、明治以降、かつてなく画期的な一歩を踏み出したと云えよう。

それらの取組は、江戸城全体整備構想並びに世界遺産登録の課題と密接不可分であり、行政の取組状況を十分に踏まえていく必要がある。改めて、提言書「VISION2032」及び調査研究、普及・啓発、提言活動の在り方を含めて検証を行う必要があり、その上で、引き続き、関連する行政及び民間へ普及啓発及び提言活動を推進していく。

*参考 東京都が策定すべき「大綱」は、江戸城史跡という地域（千代田区他8区）が策定する「文化財保存活用地域活用計画への支援策である。同時に大綱・「特化した取り組み方針」においては、江戸全体の文化圏に関わる有形無形の文化財の保存・活用計画への地域等への支援策である。即ち、東京全体を俯瞰する歴史文化資源を活かした観光まちづくりにとって、極めて重要な政策である。

2. 歴史文化資源プラットフォーム

江戸城全体整備構想と表裏一体にある江戸東京の有形無形の歴史文化資源やそれらに関与する人々や主多様な主体の関与を求めて社会関心の醸成を図ることを目的とした。現在、600近くの歴史建造物・文化財から抜粋して順次、ホームページに掲載している。歴史的建造物を軸に、さらに、祭り、年中行事、伝統文化、芸能等の多様な文化資源を時空間的かつ一元的に情報収集を行なうことを目標としているが、十分な取り組みはできなかった。

II. 普及・啓発、提言活動

1. 普及・啓発活動

1) 有識者の講演・セミナー

江戸東京の歴史文化資源を活かした観光まちづくりの観点からテーマを選定し、2024年度は、専門的な観点から役員、会員等による開催となり、それらの内容はホームページに公開した。

- ・開催場所：日比谷図書文化館

- ・参加費：会員及び一般市民 参加費 2000 円 、市民、学生等無償先 5 名迄とした。

- ・6月：江戸城全体を俯瞰する（都市史研究家 後藤宏樹）

江戸の地形や道、旧江戸城の歴史建造物群及び表玄関等本丸御殿等の江戸城のメイン箇所を把握した。

- ・9月：江戸三度（一般財団法人 江戸東京歴史文化ルネッサンス理事長浅田豊久） 重要書類衣類等馬や飛脚で輸送したシステム、江戸と加賀藩を月に三度往来した人々の生活や文化及び京都三度の往来文化もあったことを学んだ。

- ・10月：江戸の台地と江戸城の位置付け 法政大学 名誉教授 岡本哲志)

地形を活かした江戸城の特異性の価値と可能性及び江戸城堀割の水循環システムの再構築等江戸城の魅力を今日に浮かび上がらせる着目点を学ぶ。

- ・11月：稀代照覧を読み解く（淑徳大学客員教授 江戸東京博物館名誉研究員 小澤 弘）

江戸時代後期日本橋までの中央通りを舞台に街の繁栄と人々の生き活きた生活を絵巻により詳しく知ることを学ぶ。

：

2) 会報誌等発刊及びホームページへの掲載により広く一般に公開

- ・会報誌 18 号（3 月・特別企画

新会長及び新理事長の就任に伴い、これ迄の歩みから現在へ、そして、近未来を展望する二人の対談により主な課題を明らかにした。

- ・会報誌 19 号（9 月・特別企画）

遂に、漸く動いた東京都（世界遺産登録を中長期計画に計画化、「大綱」の策定の開始等）

- ・リーフレット 世界遺産を目指す江戸城再生をテーマに「よみがえれ 江戸城」を策定した。

2. 提言・コミュニケーション活動

東京都に対して、文化財保護法の中核であり策定中である「大綱」並びに「世界遺産登録を目指す」担当箇所とのコミュニケーション活動を行った。引き続き、関連する行政及び民間へのコミュニケーションや提言活動を推進する。

以 上